

相國公之
 弟之
 弟之
 弟之



京極殿よりうら
月紙
巾紙、ちまひに
うら
ひきと



丁酉
 乙未



新治

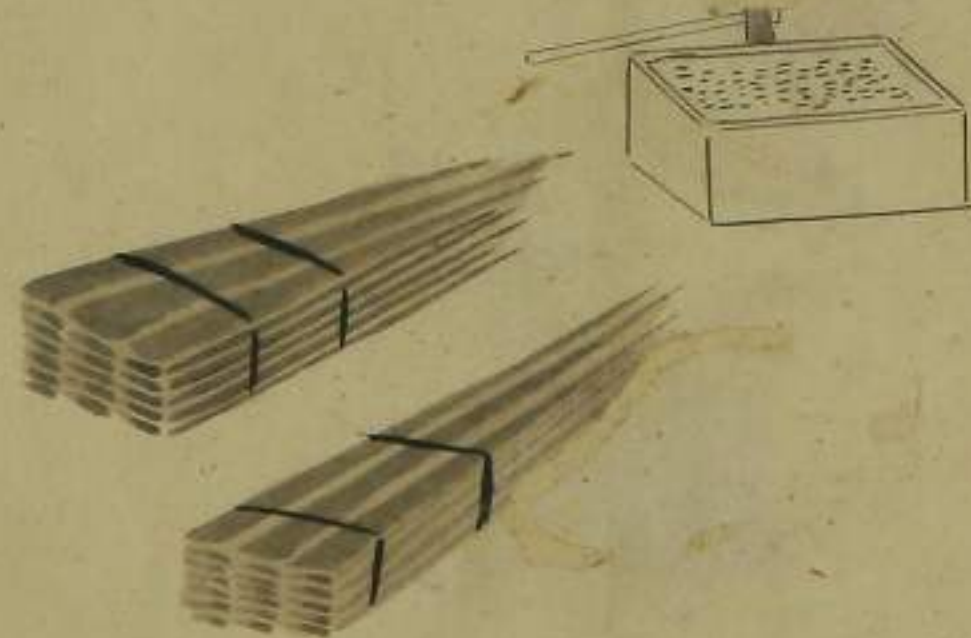
壁塗

アツク〜い〜い
〜も〜も〜も
こゝのた〜も〜も
ま〜も〜も
〜も〜も



檜皮葺

い〜も〜も
〜も〜も
〜も〜も



枕責



檜皮葺 ひのかわき

いむかき
とく

枕責 まくらせき



いすの
いふ

墨刺 すみさし

九條文小の
山をあらわす
あ





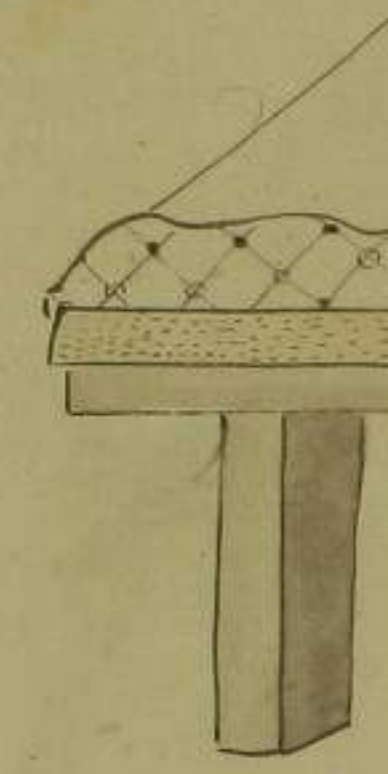
坐
絶
世
の
心
を
も
つ
て



南
禅
寺
い
ろ
は
な
し



風
光
の
中
に



舟
士



山人

こゝに杖をうて
たゞをうて



力士

はな

あ

い

う

棉いん挽いん



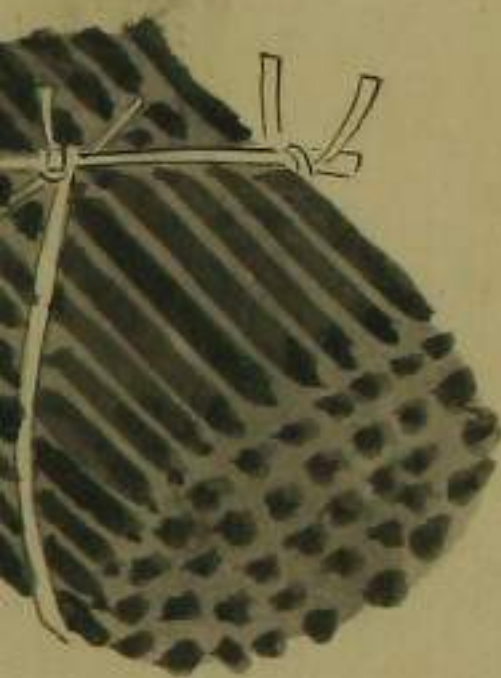
まつ

の

う

あ

炭すす



炭下り

ききいて
うききき
きき

小原め

あゝ帰れ
きききき
けき



樵夫



依見
る
る
る
世
ふ
り
て

か
ら
う
み
な
ら
し
き

蕨



檜
物
—

中
角
も
は
い



籾

檜物

申桶も是
しに大なる
乃を免う
沈みん

車作



紅粉解

鍋賣

鏡磨

志海子然西渡ハト云
に今傳

紅粉解

西園に
て
は
新
も

此
 上
 下

鍋賣



懣
廣
端
一
中
略

卷七

はるかに
ほろろあはれ
ふりて

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



酒作

酒作



ひきこもる事

是ハ因幡カ

はる



あうかきけ

何う

帰

ア

土器作



か
し
う
い
う



し
ま
う
し
う



と
ま
り
作



かじくはう



草履くわいははき



あなうら
いそこんか
きり

し
し
し
し
し
し

硫磺りゅうおう常じょう素そ



葱賣いしり



蛇へびふふきき



硫磺いり常つね賣ばい



いしり
葱煮



何
土煮

いしり
こ
いしり
いしり
いしり



いしり
いしり
いしり

あ
いしり
いしり
いしり



あきうたろ
餅すいれ



米賣

そのとこめり
けうのちよハ
あひ

日休、大夏、小のち、高
あきうたろ

米賣



魚
—
物賣

にせん



饅頭うき

之新
うき
高
うき
うき

新
うき
うき
うき
うき



饅頭まんどううう季き

と物ものわ
ううき
商あき

ううき
ううき



部ぶと物ものは余あま良よしや
ああききくくや

法ほう論ろん味み噌そう賣う



鹽しほうう季き

ささののふふききままの



法論味噌賣



蟹うなぎ

きのふ言
あひま
うなぎ
人



麴賣

上戸連
ッ洗



蛤
土
賣

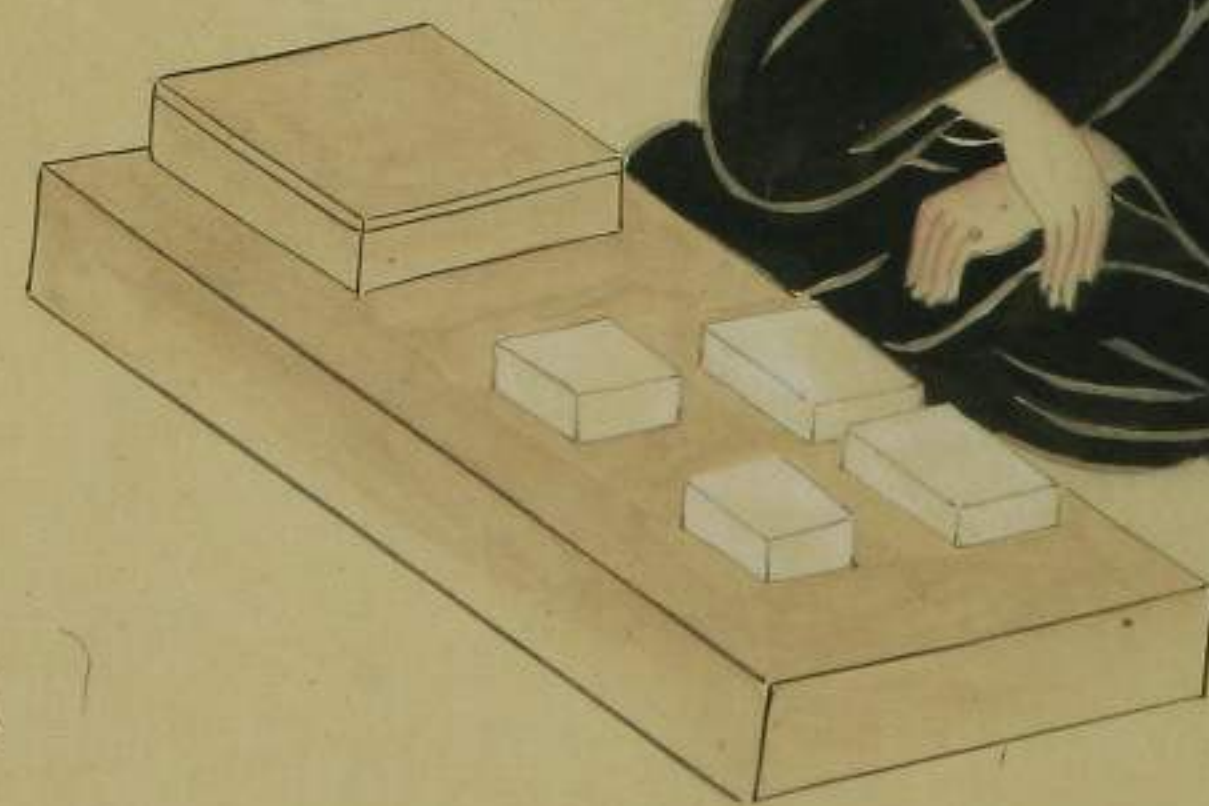


索
麵

い
ろ
は
な
し

豆腐
う
ま

そ
う
め
せ
大
宗
良
う
の
な
ま
て
ん



美土賣

もののわたり
をうけ
なす



いさな
あし
めり

蛤土賣

ひちのあし
はち
まを
うけ
る



一服一鉢



一茶乃山茶也

美土賣





扇子賣

あはれい
うれい
あはれい

烏帽子折

今日は乃沙を
ちとさして仕



弓作



造
望

あ
ら
わ
い
の
ゆ
え
に
こ
の
や
う
な
こ
と
を
し
て



本がき

いうさのむ

おろくけらいうせ

弓作

はゆきしんを

きしんを

にきしん

かきしん

弦賣

はゆきしんを

きしんを



はゆきしんを

弦賣



蔭徳士

此をいふは世に作れ
るものなり



貝磨

いふのう
たの
し
い



研



翰枯



火の
集

塗士ぬし
きりまの
うし
り



何きりたききき
 ちききききき
 ちききききき
 ちききききき

研



膏而

尚造



抄
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

鞠古く

龍波のふくみ
路



香造



繪師

吾妻の巻物の中



別當のつね
わづらひの
いそぎや

冠師



薄し



なんや
い
あ
ま

あまの

やう
あま

銀はく



冠師



暮露

鞍紐



何々
おれや

朝巻

当座
何々
何々
何々



薄



鞍
細
工



暮
露



巳
年



丸車



醫師



殿下

が命湯

を散

を水

あ

おれもくは海女被
おれもくは海女被



殿下

が命陽

うう散

めんさるる水

あま



陰陽師

ふかもくろい海苔飯
指系何人
いふ



佛師

河津氏の所

蓮臺座を造

杉谷法師原

多ひて

仕



聖師

蓮華座を造り
杉香法師原
久うひて
仕

聖師

此書きよき
きりりりり
きりりりり
きりりりり



玉磨

ふしはらうのむね
かきしをもち
会珠のふり
あふれ



常々季

い常々をうへて後見んうへ



硯士

志をうへて
うへてうへて
うへてうへて



ふまはらうのむね
うへてうへて
うへてうへて
うへてうへて
うへてうへて





白く君

下上膳

お中入

お中入

らんちうの
お中入

白く物うき

百重もあつて
いふもせう
つらつといふ



いふもあつて
いふもせう
つらつといふ





いつい物



あは
あは
あは



あは
あは
あは



能んーし

しーしー

さーん

きりきり



きりきり

しーしー



しーしー

おちろ君

おちろさん



琵琶法師

何となく
煙草を
吸ふ



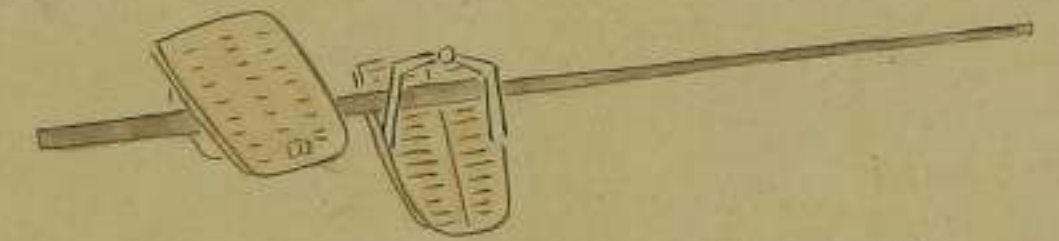
琵琶法師

何となく
煙を吐く
暁の光



女盲

宇多天皇十一代の後胤
伊藤の嫡子よからぬの良
し



緋搔

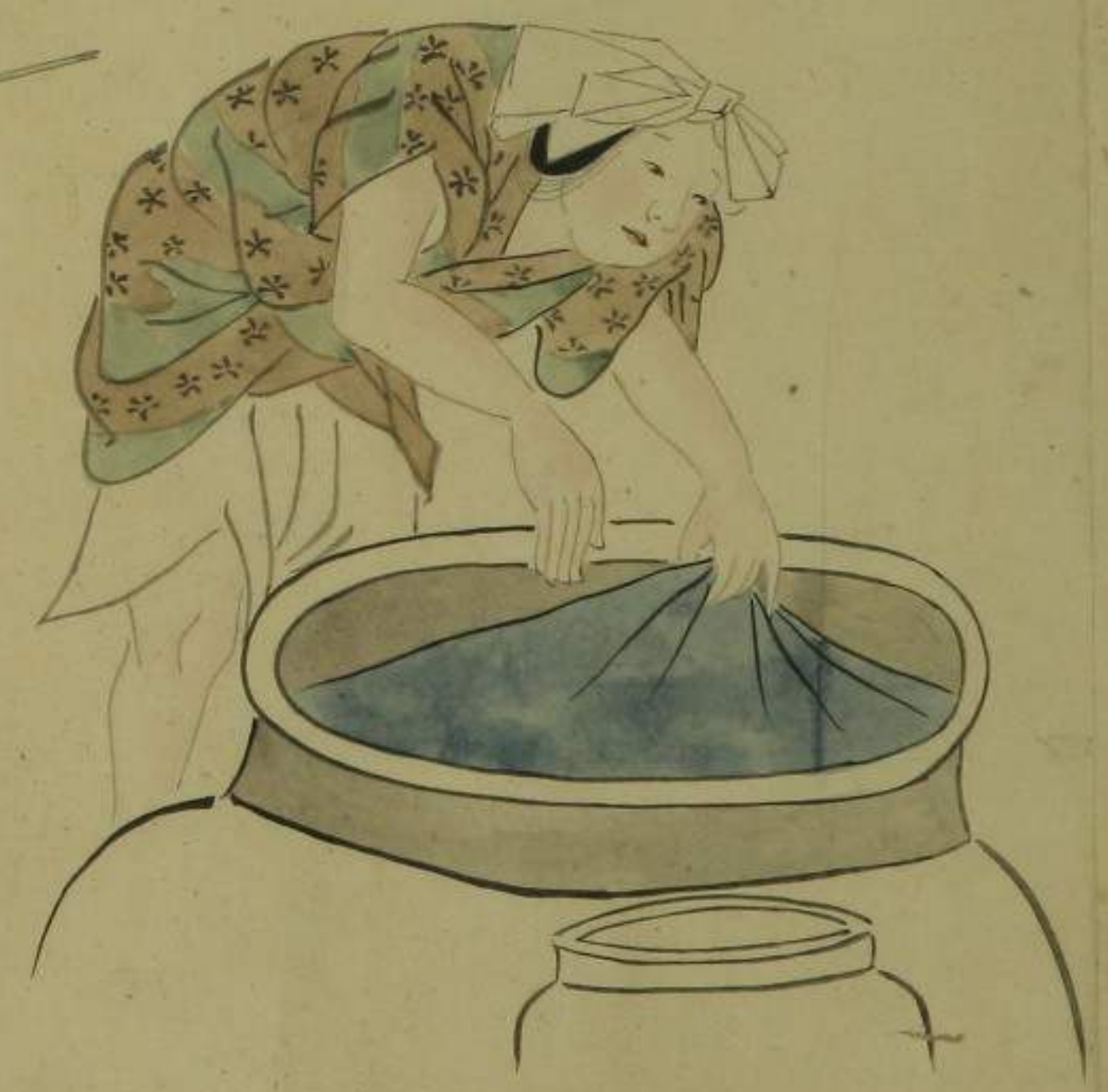
さしつか
作



宇多天皇十代の後胤
伊藤の嫡子よからんの子良
し

緋搔ひかき

さしつか
作
は



あこ
ゆ
こ

機織



針磨はり



機織



針磨

いほういほう
たす
そ



念珠挽



ねとろと七人の
むしーい
そ

筆心



念珠挽



筆心



うれきハ毛のうね
るゝぬったまゝ

苧ろ

てあましろ

わ
あ
う
ろ



苧ろ

てあましら
か
あ
あ



新所産
翠屋

新所産
白しら
あ
あ
あ



糊
あ
あ
あ
あ

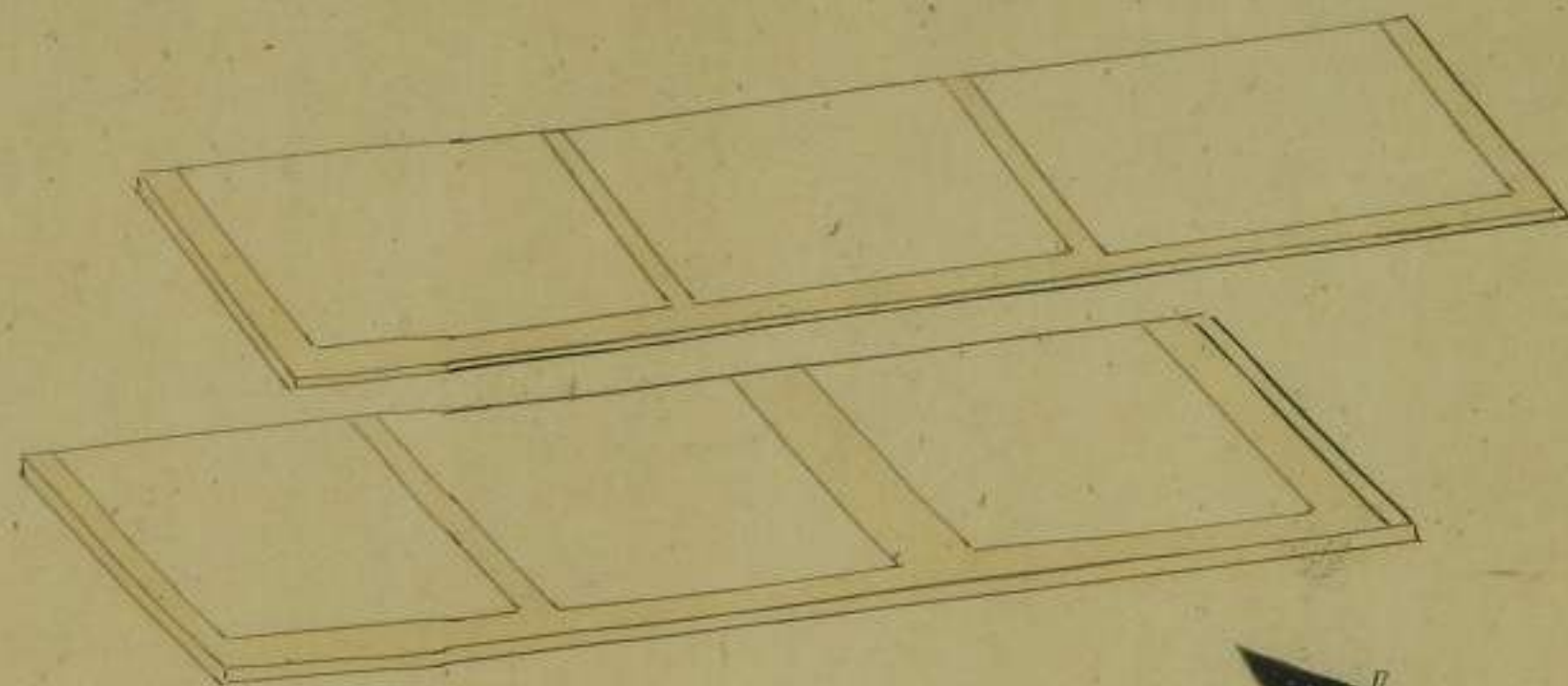


唐紙

傘張

墨摺

さくらんぼの墨摺
いねまのいねまの墨摺



紙漉

あつちゅうを
け

唐紙



墨摺

いぬさめのはな月とて
さき



傘張

ふのあやうきね
いふ



目のゆえ
あやうき
花や

殿は利

